

# 学校点描

朝晩が肌寒くなってきました。それでも、中学生はなかなか冬服に衣替えしません。

《M中学校》

NO.11

R5. 10. 4

担当：校長

9月13日～19日にかけて、新生徒会のI・F会長とK・K副会長、K・T副会長それぞれと校長室でランチミーティングをしました。生徒会のことだけでなく、部活や夢、家族のことについても教えてくれました。3人ともM中の顔として十分な資質を感じさせてくれます。

9月24日（日）はY市のビッグウイングを会場に、Y県少年の主張大会が開催されました。地区大会、S北大会と通過してきた、A・Sさんが抽選の結果10番目に堂々と発表してくれました。惜しくも入賞はなりませんでしたが、地域文化について考える内容はピカ1でした。これまで和田先生のもとで毎日毎日積み重ねてきた練習は、決して無駄にはならないはずです。

S地区防犯広報作品コンクールがS警察署で開かれました。標語の部で、I・Yさんの『詐欺電話 家族で相談 あいことば』が最優秀賞に、M・Nさんの『やめようよ 家族の涙 君は見たい？』が優良賞に輝きました。標語応募360点のうちから選ばれた3点に入った作品です。

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動標語M地区優秀作品でT・Mさんの『気づこうよ 影で泣いている 君の友』が優良賞に選ばれました。

9月30日（土）に地区中総体後期大会の陸上競技がS市陸上競技場で開催されました。結果、以下の選手が入賞しました。女子では、T・Mさんが2年100mで第4位に、S・Hさんが共通800mで第4位に、A・Mさんが共通100Hで第4位に、K・Nさんが共通走幅跳で第4位に、O・Sさんが共通砲丸投で第7位に入賞しました。また、共通4×100mリレーでM中（T・Mさん、K・Nさん、W・Rさん、N・Nさん）は第4位に輝きました。男子では、共通110HでS・Rさんが優勝、共通走高跳でW・Hさんが優勝しました。2年100mでS・Jさんが第4位、W・Hさんが第5位、共通200mでS・Jさんが第4位、共通800mでA・Kさんが第6位、共通3000mでA・Kさんが第6位、O・Tさんが第8位に入賞しました。共通4×100リレーでM中（O・Rさん、T・Tさん、S・Jさん、W・Hさん）が第3位に輝きました。学校対抗では、女子総合が第8位、男子総合が第4位、男女総合が第6位でした。進んで陸上部に入り、精一杯に練習し自分のできることを発揮してくれた結果です。

10月1日（日）、S市民文化会館で高校フェスティバルと称し、地区内の中学2年生とその保護者を集めて、S北高校・M上校、S南高校・K山校、K産業高校・M川校、S東高校の高校生が、さまざまに工夫を凝らした学校紹介を行ってくれました。今年で2年目となります。人生は思わぬことがきっかけとなって変わります。まずは行動して自分の目や耳で確かめることです。

## 勇敢な少年

高校フェスティバルで各高校の生活について中学生や保護者に向かって説明する高校生は、いずれも大人らしく頼もしさを感じました。中には中学時代を知っている生徒もいて、その成長には驚かされました。高校時代の仲間からよい刺激を受けて成長していることがわかります。

話は変わって、先日テレビで映画監督の山田洋次さんが取り上げられていました。「男はつらいよ」「学校」「武士の一分」「母べえ」など、有名な作品ばかりです。そんな山田監督にも、苦い思い出があるという話でした。

小学生の時のことです。

最近、どうしてだかあまりそのような児童や生徒を見かけなくなってしまいました。昔ほどのクラスにも必ず一人や二人、手に負えない乱暴者がいたものです。

偶然にも、わたしと同じクラスに、小林君といって、ずば抜けてがっちりした体格で力も強い子どもがいました。クラスの中の男子は、文句なくこの小林君に服従させられました。反抗する奴は片っぱしからブンなぐられるのです。こんな状況だから、毎日の通学は憂鬱です。

「あー今日も、小林からあーしろ、こーしろと言われるのか。」と思うと本当に、早く学校から帰りたくてしょうがなかったです。

ある日、それは多分、国語か道徳の時間だったと思いますが、女の担任の先生が友達ということについて話をした後で、クラスの一人ひとりに自分の好きな友達をひとりだけ言ってごらんという発問をしたのです。

さあ、大変なことになった。ほとんどの男子生徒は身震いしましたね。そっと後ろの方を見ると、例の小林君が睨み付けているのです。不思議なもので、だいたい力の強い者は後ろの席にいるものです。席の順に先生は指名をされました。第1番にさされた男子児童は気の毒でしたね。彼はオズオズと答えたように記憶しています。

「小林君です。」

以下、右にならえです。次々に立ち上がり男子児童は皆「小林君です」と答えるのです。事の異常さに女の担任の先生の顔は曇ります。やがて、わたしの番がきました。学級委員であった私の責任は重大です。発言するまでの時間の長さは、今でも体が記憶しています。いっそのこと「お腹痛くて、保健室に逃げ込もうか。」とそんな雑念もよぎるのです。

先生は期待を込めたような表情で、わたしの名前を指名しました。

わたしは立ち上がります。そして、実に情けないことをしてしまうのです。

「小林君です。」

先生の、これまで以上に曇った表情は忘れられません。その後も、何人も同じように答えが繰り返されていく。その間、小林君は何と答えたか忘れまして、そんなことよりも自分の発言に悔しさが込み上げてしょうがありませんでした。

やがて、そろそろ終盤に近づいたとき、小林君に特にいじめられていた小柄な医者の子息である梅沢君の番になりました。梅沢君は、顔を紅潮させて立ち上がると、ひときわ大きな声で、なんとこう答えたのです。



「僕は、小林君が大きらいです！」

クラス中の児童らは、腰を抜かしました。

わたしは、たとえようもない恥ずかしい気持ちと、普段は小さな彼が、恐ろしく大きく、強い人間に見えた姿を、今もはっきり思い出すことができるのです。

その後、小林君はたしか、彼に対し復讐はしなかったように思います。

実は小学生だったわたしに、自分の愚かさを認識させてくれ、そして人間の勇気について教えてくれたのは、あの小さなクラスメートでした。

『勇敢な少年』山田洋次 著（『映画館（こや）がはねて』中公文庫

9月という月は、いろいろな生徒がさまざまなことに挑戦してくれた月でした。実は中学生が「挑戦してみよう」の気持ちどおりに行動することが難しいです。同調圧力が邪魔するのです。それでも懸命に挑んでいる誰かがいて、それを見たときに自分の弱さが姿が鏡のように写ります。

一人では成長できないことでも、誰かの姿を通して自分が成長できることが学校にはあります。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。